

KSU

KOBE UNIVERSITY



What It Is

What It Does

How It Works

神戸高商『語学部』(Foreign Language Dept.) 以来、過去半世紀にわたる輝かしい歴史を誇る『神戸大学E.S.S.』は、本学において最も活発な課外活動(extra-curricular-activity)であるだけでなく、全国各大学の同種『E.S.S.』『英語会』『語学部』『国際部』などのうち、名実ともに最優秀の部に属すると自負している。

『神戸大学E.S.S.』は「薄っぺらなAmericanism」を身につける所ではないし又いわゆる「会話学校」でもない。英語を愛好する各学部学生有志が一つになって、共に英語をenjoyする所であり、狭い意味では、あらゆる事を、英語を通じて研究する事、広い意味では English-Speaking peoples との mutual understanding, trust として friendship を目的としている。勿論、この目的達成のためには、会話が必要であり、作文も、演説も、そして外国mannerの研究も重要である。

外人教授の少ない国立大学にあつて、教ヶ所に分散せる各学部にわたり活動せねばならぬ『神戸大学E.S.S.』は、いうまでもなく担当の handicaps を負わされているが、“E.S.S. of the members, by the members and for the members” を基本方針として、理想的と考えられる system で諸活動を行つている。

現在までに教壇にわたり『国際会評』を主催、阪神在住の外人や各大学E.S.S.代表を招待した他、J.S.A, I.S.A主催の『日米』『国際』の両学生会議には代表多数を送つて、在阪神の外人からも「活発なKobe E.S.S.」として知られる『神戸大学E.S.S.』の会員は、各学部総計約150名であつて、神戸高商、神戸高商『語学部』会員による『神戸大学E.S.S.=QB会』も近く結成されようとしている。

“Outline of the E. S. S, Kobe University”

April, 15, 1952

published by

Board of Directors & public Relations Committee

E.S.S, Kobe University

Edited by

Naomichi Korenori, Chief Secretary

I. 沿革

[A] 『神戸商業大学ESS』(1937
～1941の分のみ)

○ 英語雄弁大会

毎年全国各地で催されるものに参加し、優秀な成績を収めた。特に関西学院主催の大会には、1937-39年三年間連続優勝した。又毎年『全国高専英語雄弁大会』を主催し、本学教授その他の審査員を委嘱して、三位までに賞状、賞品を授与した。

参加弁士は、京阪神のみならず、東京、名古屋、福岡等より、その数は30名に及んだ。

○ 語学大会

毎年春秋『語学大会』を主催し、英語劇、仏語劇、独語劇、草語劇の他、英会話競争など多彩な内容を誇った。会場としては、神戸海員会館、本学講堂を使用し、上演はもとより脚色、照明、装置等も全部『語学部』員が行った。脚本は“Journey's End” “Night Watch”等の外国文学、あるいは「冠警のかなたに」「屋上の狂人」等、有名な日本文学の翻訳を採用した。

○ 『三商大交歓会』

神戸、東京、大阪三商大ESSの交歓会は毎年一回、三校輪番で開催した。

親睦ならびに相互の意見交換を目的として英語討論会の他、自由懇談、会食などを盛大に行なった。

○ 講演旅行

毎年夏季休暇を利用して、地方の商業学校へ講演旅行を行い、地方商業学校生徒への英語研究普及に貢献した。一田は教授一名と部長

数名で、各地で教授の講演及び英語Speech英会話を実演し、商業学校生徒との交歓をした。

○ 日本英語学生協会(J.S.A.=現在の日本国際学生協会の前身)主催の「日米学生会議」「日比学生会議」は隔年日本で開催、本学からもJ.S.A.会員多数が参加した他、E.S.S.としても、J.S.A.に協力した。

○ 1938年夏 比律賓学生観光団が来日し、「英文毎日」の世話で各地を旅行したが本学もこれが接待と交歓に参加し、本学参観の時その案内に当った。

— これ等対外行事の他、日常行事としては英会話練習、Speechの訓練、聯誼会、討論会を行い、有てはBible Class'に参加した。

[B] 『神戸経済大学E.S.S.』(戦後合併まで)

1945年
11月 景下大学高専にて「E.S.C.」(English Speaking Club) 結成、神経大、同予科、同専門部、神戸女学院、関学、神商大、甲南高加盟。会長 谷本三(神経大)就任。

占領軍將兵に、能、舞踊など日本文化の紹介をなし、渉外局の囑託となる。

1947年

5月 「アメリカ友の会」主催、景下大学高専英語弁論大会参加(大崎3位、丹羽6位)

1948年

5月 毎日新聞社主催、マ元帅杯第一回学生英語弁論大会近畿予選参加(丹羽)

11月 神戸市主催 第一回学生英語弁論大会参加(石黒、丹羽)

1949年

2月 第一回景下新制高校英語弁論大会を主催(参加15名)

6月 毎日新聞社主催、マ元帅杯第三回全国学生英語弁論大会近畿予選参加(倉本)

7月 日本国際学生協会神戸支部結成
神経大、同予科、同専門部、神戸女学院、関学、高工、商大、医大、甲南高参加
榎屋、丹羽(神経大) 正副委員長就任

10月 第二回景下新制高校英語弁論大会を主催(参加25名)

校内(旧制学部、予科、専門部、新制学部)英語弁論大会主催(参加14名)

11月 日本国際学生協会主催第十回日米学生会議(東京、上智大) 参加 大崎、丹羽

1950年

5月 日本国際学生協会神戸支部主催、第一回景下学生英語弁論大会参加(丹羽2位)

毎日新聞社主催 マ元帅杯第四回全国学生弁論大会近畿予選(参加 丹羽)

8月 日本国際学生協会主催第十一回「日米学生会議」関西会議(沢田委員長以下十数名参加)

11月 明治大学E.S.S.と討論会

第三回景下新制高校英語弁論大会を主催(参加20名)

1951年

6月 日本国際学生協会神戸支部主催、第二回景下学生英語弁論大会参加(横山)

毎日新聞社主催、マ元帅杯第五回全国学生英語弁論大会参加(横山)

東京遠征、一橋大学と英語討論会

明治大学、慶応大学と英語討論会(初

島、丹羽、黒川、新制 織田、木村)

8月 日本国際学生協会主催、才12回「国際学生会評」(下山以下委員として活躍)

9月 新制、旧制各E.S.S.合併会評
(旧制初島部長以下5名、新制山本会長以下5名代表にて協評)

深更に意見まとまり、新制E.S.S.合併成る。旧制丹羽会長就任。

Smith 先生を囲む先輩後輩文楽会
(9回生岡野正氏以下全40名出席)

〔C〕 『神戸大学E.S.S.』

第一期「神戸大学E.S.S.」は1949年7月2日、神大発足と共に「English Speaking Society」として設立され、28名の会員が自治会文化部に所属して、講演会、会話練習「The E.S.S. Times」発行、海外文通、英文雑誌貸出しなどの活動を始めた。会員数漸増に伴い、運営円滑化のため、「会計」「総務」の係を設けた。12月にはBible Classが始まり、1950年2月から「The E.S.S. Times」は6頁になり、大阪、神戸で外人とのdiscussion groupが設けられた。御影でBible Classを用いていたRev. L. W. Peterson宅で「Wednesday Club」を行うようになり、American manner 習得に、会話練習に新しい機会を得た。

この初期においては、外部への発展より内部充実に重点を置き、会員の意向を尊重して非組織化の方針を採った。自治会文化部ではE.S.S.が最も活発な会である事が認められた。しかし財政的には非常なピンチにあり

会費制度を採用した。

第二期 新入生を迎えるため、「会計」「編集」「渉外」の三部と「Reading」「Conversation」「Discussion」「Composition」「Type Writing」「Bible」の大Clubsに再編成して、会員数の増増に対処した。3月に初の役員選挙行われ、創立の功労者、経済学部竹村君が初の会長(当時Chairmanと稱した)に選ばれた。3月18日 小松教授追放反対闘争で活動が中断されてきた、新入生を迎え入れた。学舎が大甲と柱吉の両山上に分かれていたので、運営は非常に困難だったが、講演会は毎週開かれ、討論会、見学会等も新入会生を迎えて急速に活発となり、神大文化活動は、まさにE.S.Sの独舞台であつた。Roy Smith教授提案のConversation Contestが行われるようになり、「The E.S.S Times」は毎日新聞社の好意で写真を掲載するようになった。

2ヶ月にわたる夏季休暇には、神戸 函館、大坂に、上級生をleaderとする「Training Course」が設けられ、夏休み中も平を流しての活動が続けられた。又8月4日から神大 大甲学舎で開催されたI.S.A主催の「オ11回日米学生会議、Kobe Session」にはE.S.S会員5名(当時2年生)が応募し、全員が代表選抜テストに合格、会議中大活躍した。10月には、会話より一歩進んで、英語を通じて深みのある問題と取り組むため「Study Course」と「Training course」が平行して設けられ、会の名称も、会員の総意で「English Study Society」と変え

られた。しかし財政状態が悪く、役員辞任の意向が強いのを11月2日改選し、泉谷君が新会長になつた。3度目の編成変えで、役員削減、機構簡素化を目標に、「Type Writing」「Discussion」「Conversation」の各Club、会計、渉外の各部、「Study」「Training」の各courseを廃止、自治に委ねた。「編集部」は「Journalism Club」と改称して、会紙発行以外にJournalism一般の研究を始めると「The E.S.S Times」は隔月発行となった。この期間中最大の課題は、(1)学年間の親和 (2)新会員の練習 (3)財政問題 (4)活動と各自の生活の両立であり、役員の方力で、多くのtroublesにもうちかつて、活動は絶え間のない進展を続けた。

第三期 新委員会は「国際討論会」を1951年1月に開いた。これには、アメリカ、イギリス、フランス、ノールウェイ、中韓の各国人の他、各大学E.S.S代表を招待し、政治、教育、宗教の三部に分れて活発な意見の交換を行つた。新入会員を迎えて、昨学年度から会員のlevelの向上と外部への発展にも力を入れ、7月には、山本新会長の下、「神戸大学E.S.S」創立一周年記念、国際討論会を開き、前回以上の成果を収めたが財政的には多くの赤字を齎した。

第四期 日本国際学生協会主催の「国際学生会議」は、大坂道手門学院で8月9日から開かれたが、E.S.Sから数名が参加し前年度同様活躍した。続いて行われた「日米学生会議」(東京学智院大学)には3名が参加し、「神戸大学E.S.S」の眞価を示した。

この間、旧制「神経大E.S.S.」との連絡も緊密に行われ、相互に協力しながら、それぞれの活動に努力した。

Training Course は夏休み中続けられ、会員の level 向上に与って力があった。

神大、神経大両E.S.S.では、この頃、合併の気運が強くなり、9月8日 両E.S.S.代表の会合で、合併の話し合いにつき、冊初会長の下に「神戸大学E.S.S.」として発足する事になった。英語による名称は(新制)「English Study Society」(旧制)「English Speaking Society」とともに譲らず、「E.S.S.」の略称で妥協した。

12月には、Smith、植木両顧問の要望が実現して、学舎分散のため、別個に活動していた教育学部「English Circle」と文理学部文科の同種クラブを合併。現在、「姫路分校E.S.S.」との合併が軌道に乗りつつある。

(D) 「神戸大学教育学部 English Circle」

発足：1951年4月

会員：約40名

活動：1. 毎日昼食時、英会話練習

2. 毎月、会員有志による英米文学研究発表会を行つた。現在までに行つた研究題目は次のようである。

“シェイクスピア：ジュリアスシーザー”

“ユートピア文学”

“サムエルバトラー：エレフオンズ”

“サマセット・モームのリアリズム”

“シェイクスピア：ハムレット”

“米文学特にロバート・ネイサンの作品”

3. 会誌発行、毎月会員有志の作文、感想文、評論および教育学部英語科教員の寄稿その他、ニュース、英詩文選を掲載、印刷は会員有志の手で成された。

4. 講演会、ニヶ月に一回、外人講師を招き、身近なテーマについて講演してもらつた。続いて、講師を囲む座談会を用いた。

その後：1951年12月、Smith教授、植木講師の勧告を受け、「神戸大学E.S.S.」に合流し「神戸大学E.S.S. RS Branch」となつた。

II 活動

「神戸大学E.S.S.」は近く創立三周年を迎えるが、設立以来主たる活動は次のようである。なおこの中には、合併以前の旧制E.S.S.および教育学部English Circleの活動を含まない。

[A] Lecture (会場)

1. 戦時における在米邦人の生活

神大教授 Roy Smith

2. アメリカの大学生活

パルモア学院 Herbert Coston

3. 合衆国における青年活動

神戸ベース教育部長 J. W. Schoonen

4. 合衆国における外国語(神戸C.I.E.)

神戸ベース教育部長 J. W. Schoonen

5. 英詩に就いて
啓明女学院 Miss Ruth Taylor
6. 合衆国における公衆衛生
神戸大入陸軍病院 Capt. R. F. Reid
7. アメリカ国民に就いて(大甲)
神大教授 Roy Smith
8. キリスト教に興味ある学生のために(大甲)
宣教師 Rev. L. W. Peterson
9. 日米兩國における青年活動
近畿民事部民間教育課
Paul Anderson
10. 映画"火山歌"に出演して(住吉)
啓明女学院 Miss Ruth Taylor
11. 民主主義とキリスト教に就いて(住吉)
神大教授 Roy Smith
12. 科学と宗教(住吉)
大塚女学院 Miss A. C. Grube
13. カナダの政治に就いて(大甲)
岡学大教授 Donald Clugstone
14. アメリカ下層階級の生活(大甲)
神戸ベース教育部長
J. W. Schoonen.
15. 新聞に就いて(大甲)
英文毎日編集次長 W. T. Shibata
16. 合衆国における婦人の社会的地位(大甲)
近畿民事部民間教育課長
Miss J. Colletti
17. アメリカにおける大統領と教会の關係
(住吉)
バルモア学院 Herbert Coston
18. アメリカの大学生生活(日本語 住吉)
神大教育学部助教授 角倉康夫
(Florida大学首席学術顧問直後)
19. ノールウェイにおける教育(住吉)
岡学高化学教室 Miss F. Holter
20. 新聞講座(5回、編集部主催 大阪C.I.E)
英文毎日編集次長 W. T. Shibata
21. バーナド・ショウを想う(大甲)
神大文科助教授 二宮尊道
22. アメリカの職業婦人に就いて(神戸C.I.E)
南西軍司令部キャムプ大塚教育部長
Miss E. M. Werner
23. 近代詩に就いて(大甲)
岡学大教授 Roy Teele
24. 新聞講座(御影)
第一回 英文毎日編集次長
W. T. Shibata
才三三四 " 松本猶雄
25. 記憶に就いて
英文毎日編集次長 松本猶雄
26. 英国およびノールウェイに於ける教育
(住吉)
松蔭短期大学教授 Miss Smith
宣教師(ノールウェイ人)
Rev. L. Salomonson
27. 編集の方法に就いて
英文毎日編集次長 松本猶雄
28. 科学と宗教
大塚女学院 Miss A. C. Grube
29. 《ベスト》に就いて
宣教師(フランス人) M. Brietsh
[B] Discussion (会場)
1 民主主義と家族制度(大阪C.I.E)
主催 日本国際学生協会(I.S.A.)
神戸支部

2. 科学と宗教は両立するか (大政C.I.E)
- 3 外国映画と日本映画 (住吉)
4. 何の為に学校へ行くか (神戸C.I.E)
- 5 試験制度に就いて (神戸C.I.E)
- 6 学生アルバイト (大政C.I.E)
- 7 寮制度に就いて (神戸アメリカンスクール) 主催・神経大E.S.S
8. 職業教育と人格教育 (大政C.I.E)
- 9 赤色教授追放問題 (大政C.I.E)
10. 日本武家社会とその現代日本に及ぼせる影響について (神戸アメリカン・スクール)
11. 赤色教授問題と共産主義 (神戸アメリカン・スクール)
12. 学生の政治活動の可否 (神戸C.I.E)
13. エスペラントは国際語たり得るか (大政C.I.E)
14. 宗教は世界平和に貢献出来るか (大政C.I.E)
15. 世界平和への貢献 (1950年、日米学生会誌、神大)

主催 日本国際学生協会

神大代表

- 半田勇夫 関西執行委員
 上野 陽 社会問題Bテーブル
 山本 優 宗教 Aテーブル 議長
 木村雅一 教育 Bテーブル
 織田俊男 " " "
 竹村博夫 " " "
 瀬島節子 E.S.Sタイムズ特派員
 上村礼子 " "

16. E.S.S活動に就いて (神大)

主催 大政外大日米学生会誌代表

17. 科学の発展は人類に幸福をもたらすか
18. English Conference (神戸女学院)
主催 神戸女学院E.S.S
19. アメリカの家庭生活 (尚学 No.3 House)
20. アメリカにおける教育 (Miss Grube 宅)
21. 国際討論会 (大甲)
主催 神大E.S.S委員会
日-神大、神経大、神戸女学院、同志社大、大政外大各E.S.Sおよび神経大国連研究会
米、英、カナダ、ノールウェイ、中、韓 (25名)
(英文毎日1951. 1. 19日、21日両号掲載)
宗教 — 科学と宗教
教育 — 職業教育と人格教育
政治 — 日本の安全保障
22. アレゲール学生について (御影)
主催 神大、神戸女学院E.S.S
23. 親子の関係 (大夜)
Miss. Woerner, Miss Clark 大夜会員
24. 理性と宗教 (Dr. Aske 宅)
Dr. Aske, Rev. Gudoi, Rev Salomonsen, 神大会員
25. Love in Marriage (神戸アメリカンスクール)
アメリカン・スクール教員 E.S.S会員
26. アメリカニズムに就いて (大甲)
Mr. Gudoi, Mr. Salomonsen, E.S.S会員
27. 女性の社会的地位 (神戸アメリカン・スクール)
アメリカン・スクール教員 E.S.S会員

28. 国際討論会(六甲)-E.S.S創立二周年
記念
主催 神大E.S.S. 委員会
日-神大、神経大、神戸女学院、関大、
同志社大、大阪外大、E.S.S.
米、英、仏、ノールウェイ、韓(30名)
教育-大学の使命
政治-将来における日本の国際的地位
社会-親子の関係
記念 Party
(英文毎日1951.7.3号掲載)
29. 一つの世界を目指して(大阪追手門学院)
-1951年、国際学生会議-
主催 日本国際学生協会
神大代表
黒沢一男 宗教テーブル
唄野 隆
鈴木 登 教育テーブル
是則直道
30. 平和条約後の日本(東京、学習院大学)
-1951年、日米学生会議-
神大代表
織田俊男 委員
富永恒男 政治テーブル
是則直道 教育テーブル
31. 恋愛結婚と見合結婚(六甲)
32. 反戦に就いて(六甲)
33. 我国貿易の将来(六甲)
-慶応大学英語会を迎えて-
34. 三商大討論会(六甲)
参加 - 神大、神経大E.S.S.
一橋大、東京商大国際部
大阪市大、大阪商大語学部

- 神大、神経大代表-羽島、下山、久保、
昂川、木村、織田
成田、鈴木、富永
三好
35. Women's Position in Japan (神戸女学
院) 主催 神戸女学院E.S.S.
参加-神戸女学院、一橋大、神大
36. 学生アルバイトに就いて(六甲)
主催・神大E.S.S.
参加-神戸市外大、神大E.S.S.
37. 学問の自由(神戸C.I.E)
主催 日本国際学生協会
38. 吉田内閣に就いて(神戸C.I.E)
主催 日本国際学生協会
39. 神戸特別市問題(神戸C.I.E)
主催 日本国際学生協会
40. 映画感想発表(神戸C.I.E)
主催 日本国際学生協会
41. 私鉄スト(御影)
42. 再軍備是非(御影)
43. 共産党非合法化(御影)
44. 日米討論会(六甲)
主催 日本国際学生協会神戸支部
参加-大阪アメリカン・スクール、神大
肉専、神商大、神户外大 etc.
- その他、毎週、神戸C.I.E 図書館で開かれ
る discussion group に会員多数が参加
E.S.S. 活動の一環としている。
- [C] Contest
1. 神経大予科E.S.S.主催、英語弁論大会(六甲)
神大E.S.S.代表 I、II位獲得
2. 日本国際学生協会神戸支部主催

景下学生英語弁論大会

3. E.S.S Conversation Club 主催
才一回 Conversation Contest (大甲)
Leader: prof. Roy Smith
Judges: 神経大 E.S.S. 黒川勇 三好武彦
優勝: 宮地晋一郎
4. 神戸市教員委員会主催 景下学生英語弁論大会 (神戸 商工会議所)
参加一 鈴木 登
5. E.S.S 委員会主催 才一回 Conversation Contest (prof Smith 宅)
Leader: prof Richard Linde (関学大教授)
Judges: Dr. Roy Teele (関学大教授)
: Miss Byrns (聖和女子短大教授)
優勝: 尾則直道
6. E.S.S 委員会主催 才一回 Conversation Contest (大甲 Dr. McLaughlin 宅)
Leader: Dr. W.C. McLaughlin (直教師)
Judges: Mr. & Mrs. L.W. Peterson (直教師)
: Miss Virginia Montgomery (直教師)
優勝: 根野 隆
7. E.S.S 委員会主催 才一回 Conversation Contest (prof. Smith 宅)
Leader: Prof. Richard Linde
Judges: Miss Florence Freiheit (神戸女学院)

: Prof Roy Smith

優勝: 島永恒男

9. 英文毎日主催、才五回 McArthur 杯全国学生英語弁論大会 (大阪 毎日会館)
才四位 神大代表 上野陽
"Pioneer for Freedom"
10. 三商大 Conversation Contest (大甲)
Leader: prof. Smith (神大教授)
Judges: Mrs. Kato (神大講師)
: Mrs. Takeuchi (関学)
: Mr. Yamagishi (神大 文科助手)
優勝: 吉岡侃 (神経大)

[D] Meetings

1. "Wednesday Club" (毎週) (Rev. Peterson 宅)
2. 音楽鑑賞会 (Mr. Coston 宅)
3. 駐日 UNESCO 代表リー博士を囲んで (大甲)
主催 神経大 国連研究会
4. 才一 次米 国教育使 菅田 左 迎えて (大甲)
使 菅田 次 席 Dr. Harold Benjamin
近畿民 争 部 教育 部長 Mr. Langrey.
5. 明治大学 E.S.S を迎えて (大甲)
6. 慶応大学 英語会 を迎えて (大甲)
7. 三商大 討論会、送別会 (大甲)
8. "英会話練習法 (大甲)
神大教授 Roy Smith.
9. ロータリー・クラブ 由 学生 と の 座談会
オーストラリア 学生 Mr. Hockings
日本人 学生 清水氏 (コーネル大)
田中 学 長、谷口 兼 松 社 長 ほか

新旧制E.S.S.会員参加 司会と学内案内

[E] Recreations

1. 1949 Christmas Party (閑学)
主催 日本国際学生協会神戸支部
2. America Fare 見学
ネーグループ Mr. Peterson 一家と
神大事務職員同伴
ネーグループ Mr. Schoonen, 笹田和子オペラシンガー同道
3. Mrs. H. Christenson (神戸アメリカン・スクール校長) Mr. Schoonen (神戸ベース教育部長) 帰米送別スキヤキ・パーティー (大甲)
4. 日本一ノールツエイ交歓会 (御影)
5. Christmas Party (神大、大甲)
主催 日本国際学生協会神戸支部
6. 1951 New Year Party (住吉)
7. 社交会 (Miss Grube 宅)
8. 大甲登山 (大甲山上 = 宮助教授宅訪問)
9. = 宮助教授宅送別会 (= 宮助教授宅)
10. 1951 Christmas Party (神大、大甲)
主催 日本国際学生協会神戸支部
11. 1952 New Year Party (御影)

[F] Visitations

1. 神戸 Ecole St. Marie 授業参観
神大教育学部教員同道
2. 神戸 American School 授業参観
神大附属小学校教員同道
3. 大夜 AFFRS 見学 (Capt. Byrns, Sgt. Wadkins 説明)
4. 毎日新聞大夜本社見学 (英毎柴田編集次長説明)

5. 神戸ベース教育部写真技術室見学 (Dr. Launschtein 説明)
6. 伊丹市E.S.S. 活動会話指導および見学
7. 神戸女学院文藝祭
8. 神戸商大、商大英語年輪大会
9. 閑学大記念祭

III 構成

『神戸大学E.S.S.』の主たる活動は、会話練習を中心とする「日常活動」、『The E.S.S. Times』、『The E.S.S. News』を定期刊行する「編集活動」および後述する『Annual Program』の執行と全国各大学対抗や各学部間の討論会その他を行う「対外活動」より成っている。

[A] 日常活動 Daily Activities

自治活動を重んじ、学部別各Branchが、その会員の意思に従い、それぞれ総務委員を中心として「日常活動」を行う。現在までに行つたものとしては、Conversation, Speech, Discussion, Debate や Drama の練習、英米文学研究、picnic などがある。会員の親和と練習を重視する

Branches

(1) 大甲地区；神戸市灘区高初大甲台町

旧制神大と新制経済学部学生会員により構成される「E. Branch」経営学部と法学部学生により構成される「B.J. Branch」があるが joint-meeting を持つ事が多い。

(2) 住吉地区；神戸市東灘区住吉町赤塚山

教育学部学生会員と文理学部理科学部学生会員より成る「P.S. Branch」がある。将吏理

学部が御影新校舎に移設すれば、教育学部のみとなる。

(3) 御影地区：神戸市東灘区御影町御影

文理学部文科学生会員による「L. Branch」各学部教養課程（通称Junior Course）学生会員により構成される「Jr. Branch」がある。「Jr. Branch」は更に、居住地域別に「Sparrow（神戸）」「Dream（西宮）」「Candle（大阪）」の各Clubに分けられている。新入会者により新しいClubが生まれるであろう。なお「Jr. Branch」では各Branch上級生が指導に当たる事がある。

なお近き将来、工学部学生会員により「T. Branch」が新設される。現在「姫路分校E.S.S.」として活動しているものが合併されるからであり、このBranchは毎年県下高校英語弁論大会を主催している。

〔B〕 編集活動

「神戸大学E.S.S.」設立以来、月刊発行された「The E.S.S. Times」は、京阪神地方、東京地方の内外人のみならず、各国に郵送されているが、今後一ヶ月に一回発行、活版印刷に改め、更に読者層の拡張を計っている。

創刊以来の主なる外部寄稿者は次のようである。

Mr. A. V. Harbin（南学教授）
Miss A. C. Grube（大阪女学院教授）
Miss E. K. Skinner（C.I.E 神戸図書館長）
天田太郎氏（I.S.A 神戸支部長）
吉岡みね子女士（神戸女学院）
Prof. Roy Smith（神大教授）

Mr. H. P. Marks（近畿民争部経済課員）
Capt. E. F. Reid（神戸オハ陸軍病院診療部長）

Mr. Lorraine McCray（神戸アメリカンスクール新聞編集長）

Capt. W. C. Byrns（AFRS 大阪局長）
Mrs. L. W. Peterson, Miss Helen Nakagawa（C.I.E 大阪図書館副館長）
Miss Ruth Taylor（啓明女学院教授）

柴田辰夫氏（英文毎日編集次長）
Prof. D. A. Clugstone（南学教授）
池田義一郎氏（神大教授）

Prof. Bill Porter（南学教授）
=宮尊道氏（神大助教授）

鈴木栄一氏（大阪警視總監）
谷川安孝理博（神大教授） 武市健人文博（神大教授）
尾上正男氏（神大教授）

Dr. Roy Teele（南学教授）
Miss G. Kinner（大阪アメリカンスクール）
Miss O. Houghton（神戸ベース教育課）
Miss E. M. Foss（プール女学院）
Mr. H. Coston（パルモア学院）
岩田代藏経博（神大教授） 松本雄雄氏（英文毎日編集次長）

Mrs. Nancy Echols（President, New Family Center）

Miss Leonora E. Lea（セント・ミカエル学校長） 木村扇美子女士（神戸女学院）
佐藤暁子女士（神戸女学院） 抽本誓法博（神大教授）
Gen. D. MacArthur（S.C.A.P.） Miss Virginia Montgomery（金城学院大教授）
Mr. V. Y. Shimizu（トロント大学）

(C) 対外活動

各Branchでの練習、研究の成果を発表し、
或は共同して研究討議する機会を持つため、
又「神戸大学E.S.S.」会員相互間の親交を深
めるため、次のような「Annual program」
が決っている。

(1) New Year Party (1月) 内外関
係者多数を招待し、E.S.S.全会員が出席して
行い、各年活動開始日とする。

(2) International Conference (6月も
しくは7月) 各国人、各大学E.S.S.代表
を招待し、E.S.S.代表が相互理解を深め、共
通の問題につき討議研究する。代表以外のE.
S.S.全会員はObserversになれる。

(3) Three Universities Conference
1日 (≡商大討論会) (11月)
古くから行われていた伝統の「三商大英語大
会」で、参加は、神大、神経大E.S.S.、大阪
市大、大阪府大語学部、一橋大、東京商大國
際部。開催地は東京、関西交互であり、終戦
後は東京一回、神戸一回となっている。次回
(1952年度)は東京。

(4) Inter-branch Conference
各Branchから代表を出し、日頃の練
習の成果を競う。Discussion, Debate,
Conversation Contestなどが予定
されている。

(5) Welcome Party (4月)
新入生会員を迎え、新学年度の活動開始
とする。

(6) Farewell Party (未定)
各年の卒業生を送る会

(7) General Assembly & presid-

ential Election (6月)

詳細は未定。

今年には神戸大学創立50周年に当り、又O.B.
会の結成も期待されているから、(2) Int-
ernational Conference & (4) In-
ter-branch の activity などを中心
とした Anniversary Party として盛
大に行う計画が進められている。

Presidential Election は、今回が
新旧制合併以来初めての選挙で期日は未定。
各Branch 指名の候補者に就き、全会員が
投票する。

(8) Bible Class (定期的)

E.S.S.は、各国宣教師に依頼して、英語聖
書研究会を開設し、キリスト教に興味ある会
員にその機会を提供している。現在行われて
いるものは次のようである。

毎週火曜日7PMより御影 Rev. Boil 宅
・ 木 ・ 12:30 大甲学舎 prof.
Smith

・ 金 ・ 3:00 p.m. 御影学舎 prof.
Smith

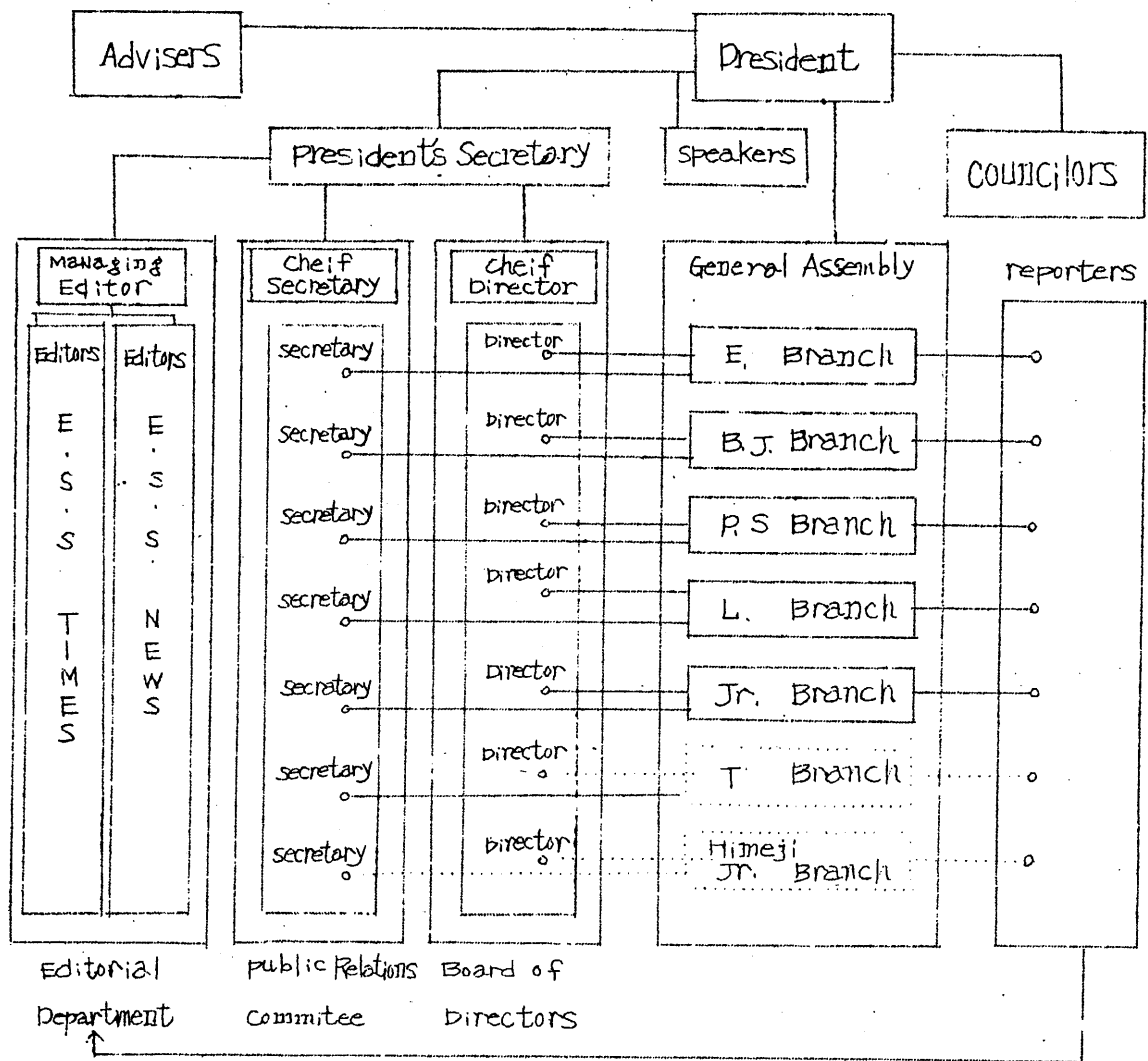
・ ・ ・ 3:30 p.m. 御影 Rev. Gudo i 宅

・ 土 ・ 3:30 p.m. 大甲 Rev. Ramball 宅

これらは新学期より時刻、場所、担当とも
に変更される事がある。

IV 運営

「神戸大学E.S.S.」の組織は次のようであ
る。



「神戸大学E.S.S.」の組織

(1) 会員 (Members)

英語を愛好し、E.S.S.の目的に賛同する神戸大学学生は、学部、学年の如何を問わず、誰でも参加出来る。会局は、E.S.S.の全活動に参加する事が出来、「The E.S.S Times」と「The E.S.S News」の配布を受ける。会員は、いつでも役員に対して自由に批判し、提案をし、それに対する当事者の明確な回答を求める事が出来る。会員は入会に際して、入会金100円を納めなければならぬ。会費は月20円とし、毎年4月末までに一年分又は半年分を払込まねばならない。分割払の場合

は10月に他の半年分を払込まねばならぬ。納入された会費の返却は行わない。会員は所属学部により、各Branchに属さねばならない。

会費を4月末までに納入しない者および活動に参加せず、活動の意思のないと認められる者は除名される事がある。

(2) 会長 (President)

会長は各Branch から選出された候補者に対する全会員の投票により選ばれ「神戸大学E.S.S.」の最高責任者である。選挙の詳細は未定であるが、日時、方法は役員総会の議決により変更する事が出来る。

現会長 丹羽恭和 (旧制3年)

(3) 会長代理 (President's Secretary)

總會議長 (Speaker)

兩名は会長から直接委嘱される。

兩名は役員總會において議長をつとめる。

兩名は会長の要請により、会長を援助しなくてはならない。

会長代理は事實上、会長の職務を行う。

なお、兩名は会長と共に E.S.S. 全般に関する責任を負う。

(4) 總務委員 (Directors)

各 Branch 毎に任意に一名選出する。任期は Branch の任意であるが、reporter は director を兼ねる事が出来ない。

總務委員は、各 Branch の活動計畫等に関し、会員の總意を總務委員会 (Board of Directors) に反映し、その実行に当る。又 president よりの通達事項を会員に伝えねばならぬ。

總務委員長 (Chief Director) は会長から直接委嘱される。

現總務委員長 眞野脩 (経営学部3年)

總務委員会は E.S.S. 全般に於ける最大の発言権を有する。

(5) 渉外委員 (Public Relations Secretaries)

前述の Annual Program および總務委員会で決定する活動に関する渉外関係に責任を持つ。

渉外委員長 (Chief Secretary of P.R.) は直接会長から委嘱され、渉外関係に於ける全責任を負う。

現渉外委員長 是則直道 (経済学部3年)

(6) 編集委員 (Editors)

編集委員会 (Editorial Dept.) は会誌「The E.S.S. Times」を隔月発行し (3月を除く)、会紙「The E.S.S. News」を隔週発行する。(休暇中を除く) 編集委員会は、いつでも reporter の援助を求むる事が出来る。

編集委員は編集委員長が、委員長は会長が直接委嘱する。

現編集委員長 三好直治 (経済学部2年)

(7) Reporters

各 Branch から任意に選出される。

Reporter は一週間に一度、所属 Branch の情報を英文で、Editor に提出しなければならぬ。

編集委員長から依頼された場合には、Reporter は編集活動その他を援助しなければならない。

(8) 評議員 (Councilors)

原則として最高学年会員から選出される。その選出は、總務委員会の決定により会長が委嘱する。定数は別に定めぬ。

評議員は、いつでも E.S.S. 活動全般に於いて助言を与え、要請があれば援助する事が出来る。

(9) 顧問 (Advisers)

顧問は原則として神大教授中より、会長が委嘱する。顧問は、E.S.S. の活動に関し、援助、指導、勸告を与える。

現在、顧問は次の7名であるが、他に交渉中の少数が加わる予定。

Mr. Roy, Smith. 神戸大学教授, B.A., M.A., M. Com., Sci.

貿易実務、商業英語、アメリカ文化史担当
Illinois 大学卒 Chicago大、N.Y. 大で研
究、1903年末日、

宮尊道氏 神大文科助教授
英語、英文学担当

東大卒 WISCONSIN 大学法学中
植木敏一氏 神大教育学部講師
英語、英語教授法担当

九大卒
宮田武代蔵氏 神大経済学部教授 経博
経済原論、産業構造論担当
神戸高商、東京高商専攻科卒
欧米に留学

山岸光夫氏 神大文科助手
英語学担当 京大卒

山田金作氏 神大経済学部事務長
神戸高商卒 元神戸アメリカン・スкуль
事務長

Mrs. Hope W McIntash 神戸大学講師
B.A 英会話担当
WISCONSIN 大学卒

(10) 会計

「神戸大学E.S.S.」の会計は総務委員会が
全責任を負う。

総務委員会は、いつでも会員の要求によ
り 会計に関する説明、公用をする義務を負
う。

なお各Branch の特別な個別活動に関し
ては、各Branchで自由に会費を集める事が
出来る。すむわち前払の会費は、定められ
た活動の費用に当てられる。

編集後記

春！—それは平和の春であると共に、
我々にとつても、長い冬眠から目覚めて、活
動し始めるスタートでなければならぬ。1
952年には、新制神戸大学も4学年全部が
完成した。現在までに耐え、そして今後も直
面しなければならぬ多くの困難を克服して、
一路、目的達成に邁進しよう。満帆の『神戸
大学E.S.S.』の舵は我々の掌中にある。Ca-
ptain 再羽の号令は“全速！”を命じてい
る。

『神戸大学E.S.S.』 招介パンフレット
編集は、色々の人たちに資料を集めてもらつ
たため、十分の統一がとれず 思ひの外苦心
した。時間の不足も、技術の低さも、そして
最も痛い資金の欠乏も手伝つて、編集者は、
資料集めを手伝つて下さった東洋商争樋口要
三氏ほか先輩と友達の期待に沿い得なかつた
事を残念に思つている。

1952年 4月5日 是則直道